戦車復活

キックもタックルも絶妙

頼れるカリスマSO

⑩SO 田村（優）

◆田村優　たむらゆう　文4　国学院栃木高出　180㌢・87㌔

帝京大戦で田村優（文4）の活躍が秩父宮を大きく沸かした。後半18分、17－7からトライを奪おうと仕掛けてきた敵へこん身のタックル。反撃のチャンスを与えることとなるターンオーバーに、体を張ったそのプレーには、まさに今年の田村優のチームでの勝利に懸ける思いが象徴されていた。

「目をつぶっても蹴れますよ」。そう、ひょうひょうとした表情で言い放つ田村優。抜群のコントロール力を誇るキックで試合を操る絶対的司令塔だ。「的確なパスはもちろん、あらゆる角度からのコンバージョンキックを難なく決めて音楽に得意を奪う。カリスマ的プレーを披露するが、あくまで本人は「感覚でやっている」という。その正確かつ自由奔放なプレースタイルが大きな武器だ。

1年生のころは、「自分が自分が」という思いから試合中に仲間とケンカすることもあった。しかし4年生になった今、田村優にはチームを勝利へ導く責任がある。これまでの大学選手権で

チーム一丸で勝利をつかめ

のチームは優勝しなければいけない」（田村優）

自己犠牲の精神あふれるタックラー

プレーでチームを引っ張ってきた衛藤陽介副将（営4）。対抗戦前、ケガをした衛藤は復帰戦となったジュニア選手権で仲間の思いを知る。

「タックルが自分の持ち味」とケガを顧みない猛烈なタックルが代名詞の衛藤。真骨頂を発揮したのが昨年の明戦だ。敵のトライをタックルで阻止するも、脳震とうを起こし途中退場。その迫力は見ている者の心を残るほどだった。

また明治の大黒柱、杉本主将とは大工大商（現常翔学園高）時代からのチームメート。「あんなえげつないタックルははじめて見た」（杉本主将）と当時からプレーの迫力はすさまじかった。高校でも主将、副将の関係で一緒にプレーしていることは分かる」と同者が語るほど熱き思いが田村優の原動力だ。

「早明戦は特別な試合。今までの以上の力を発揮する」。チームで勝つために、国立競技場に立ち、田村優が明治を優勝へ導く。

仲間と共に

今秋、衛藤は対抗戦前にケガを負い、Aチーム復帰前にジュニア選手権に出場した。ここでの経験が、真骨頂を発揮したのが昨年の明戦だ。敵仲間の意識の高さを知り、「みんなの思いがあるから戦えるんだ」と自覚する。「みんなえげつないタックルははじめて見た」（杉本主将）と当時からプレーの迫力はすさまじかった。高校でも主将、副将の関係で一緒にプレーしていることは分かる」と同者が語るほど気心の知れた間柄。そんな衛藤は「ヒロ（杉本主将）の気付いていないところをサポートすることで明治のもう一つの柱になっている。

手薄の早稲田戦。「衛藤さんの存在感は大きい」（染山・政経2）と言わしめるほどのプレーを見せ、明治全体をいい流れに乗せた。その流れを対抗戦にもつながった明治は自星を重ね、帝京大戦を迎える。衛藤は得意のタックルで何度も相手のラインを弱体。試合後、「ひたむきにいった結果」と控えめに語ったが、存在感は際立っていた。

BK

⑬CTB 衛藤

今チームの雰囲気がすごくいい。どこが相手でも自分たちのスタイルを崩さずプレーする。ただ気持ちの入りは早稲田ということでより強い。チーム全員が勝ちたいという気持ちで臨みます。

◆小泉将　こいずみしょう　営3　明大中野八王子高出　174㌢・80㌔

③PR 城彰

早稲田に勝たなければならない。それはあっても同じだと思うから、どっちの思いが勝つかの勝負だと思います。一緒にやってきた4年生のためにも絶対に勝ちたい。2年前勝ったときは本中出場だったが、今度は90分間走り切って勝利のフィールドに立ちたいです。ポジションの代表として自分にしかできないことをして部員に伝えたい。

◆城彰　じょうあきら　政経4　大分鶴崎高出　177㌢・130㌔

⑨SH 秦一平

明治のFWが動きやすいようにコントロールし、FWとBKをつなげるためにいい球出しをしたい。今まで全部できているけど早稲田に勝たなきゃ意味はない。練習してきたことを出し切り、一点差でも絶対に勝ちます。

◆秦一平　はたいっぺい　法3　筑紫高出　192㌢・53㌔

⑪WTB 木村圭吾

金勝で早明戦に挑むのは久しぶりなので楽しみです。早明戦は特別です。唯一国立でやれるから素晴らしい。伝統があって特別な試合だが、いつもどおりプリプリ押していく。金勝優勝したいと思います。

◆木村圭吾　きむらけいご　商2　常翔学園高出　169㌢・74㌔

⑦FL 堀江恭佑

早稲田はやっぱり絶対に負けられない相手。この1週間はジュニアの東海大で負けたことを生かせるように練習していきます。早明戦でもいつも通り自分たちのFWで圧倒するラグビーを展開していく。FWで圧力をかけて、ブレイクダンで早稲田の球出しを遅らせることで流れをつかみ取りたい。応援してくれる人もいるので早稲田には絶対に勝ちたいです。

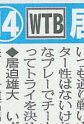
◆堀江恭佑　ほりえきょうすけ　商2　東京高出　182㌢・95㌔

⑫CTB 大澤良介

明治に入った。後の早明戦、早明戦に出たくて、あの雰囲気に憧れて、プレイしたいと思ったのがきっかけです。ひたむきに4年間やってきたことを部出したい。

◆大澤良介　おおさわりょうすけ　法4　国学院久我山高出　178㌢・84㌔

⑭WTB 居迫雄大



明戦を見てから絶対にこの舞台で戦いたいと思っていました。早明戦は勝つのは当たり前で、いつも通り戦います。自分はスタイルはないけれど、ひたむきなプレーでチームの思いを背負ってトライを決めたいです。

◆居迫雄大　いざこゆうだい　法4　千種高出　173㌢・82㌔

⑮FB 小泉将

高校3年次に早明戦を見てから絶対にこの舞台で戦いたいと思っていました。

◆小泉将　こいずみしょう　営3　明大中野八王子高出　174㌢・80㌔

「人数がわき出るようなDFを」

“BK小早稲田”を相手とする早明戦。FWで圧倒するという明治のスタンスを維持し広げることはもちろんだが、早稲田のBKを勝敗を決める強力なDFも封じ込まなければならない。帝京大戦の前、出るDFをする」と細谷ヘッドコーチは言っていた。前に出るDFで攻撃の芽を摘み、奥深くまで攻め込まれても崩い集敵でラインを割らせない。帝京大で見せたこのDFを見せるのが要とする。「慶応戦や帝京大戦のように人数がわき出てくるようなDFを見せる」。細谷ヘッドコーチ。DFでも「前へ」。柴田の檄。が早稲田に立ちはだかる。

「Aチームだけでなく明治全体で、気持ちで戦いたい」。衛藤は仲間と共に、ひたむきに、誠実に早稲田に挑む。

◆衛藤陽介　えとうようすけ　営4　大工大高出　172㌢・81㌔

【田田拓】

を与えてしまうと付け込まれて自由なプレーをさせてしまう。それ以外のスタンスを維持し、やスペースが生まれないようにする」。ボールキャリアーは「ナイスパス」。ボールを持ったら、ラインブレイクを狙う。

◎ラグビー部　田村優の早明戦ゴールの一1年生からスタメンとして対抗戦に出場してきた田村（優・文4）。過去5年間の早明戦のコンバージョンキックは一度も外すことなくすべて決めている。今年の早明戦でもそのキックカに勝負強さで貢献にゴールを奪ってくれるだろう